



記号	講座日	開催時間	大学名	講演テーマ	講師
A	第1日目 2/2 (火)	14:00~15:30	大阪経済法科大学	新たな共生を目指して ～危機のあとの社会～	アジア研究所 客員教授 内海 成治 先生
	<p>現在世界は大きな危機に直面しています。しかし、人間はこれまで多くの危機を克服して新しい社会を創り上げてきました。私はこれまで、アフガニスタン復興支援や南スーダン難民支援などの国際協力にかかる調査や実践に直接関わってきました。危機に直面した人々や子どもへの支援からの学びをとおして、共生社会というキーワードにたどりつきました。現在の私たちに何が大切なのかを共に考えたいと思います。</p>				
B	第2日目 2/3 (水)	14:00~14:20	HOS (株) 東大阪スタジアム	お家でも簡単にできる 機能改善エクササイズ	HOS小阪フィットネスクラブ 石原 桃菜 様
	<p>お家で簡単にできるエクササイズを行ってまいります。普段から身体を動かす習慣がないと、身体はだんだんと固まってきてしまいます。少しずつでも身体を動かすことで、肩こりや腰痛等の予防や改善にも繋がります。頭の体操等も取り入れたエクササイズ方法をお家でも1人で行えるように紹介いたします。</p>				
C	第2日目 2/3 (水)	14:30~16:00	大阪産業大学	新幹線開発までの危機と将来展望	工学部交通機械工学科 教授 大津山 澄明 先生
	<p>鉄道が英国に誕生し、1872年には日本初の鉄道が走りました。1964年には東海道新幹線という高速鉄道が世界の鉄道に再び光を当てました。しかし、その開発の歴史には危機もありました。新幹線開発と将来の鉄道について概説します。</p>				
D	第3日目 2/4 (木)	14:00~15:30	東大阪大学	コロナで混んとする世情を乗り切る 心のすべを学ぶ	こども学部こども学科 准教授 高岡 忍 先生
	<p>描画法を通して、コロナ禍で醸造された価値観に迫ります。描いた絵の中に秘められた事故の葛藤や願望に気づき、思わぬ自分を発見するかもしれません。</p>				
D	第4日目 2/5 (金)	14:00~15:30	大阪商業大学	「危機感の共有」のあり方を考える ～地域経済の視点から～	大阪商業大学副学長兼 経済学部長 教授 西嶋 淳 先生
	<p>人々の繋がりも貴重な地域資源です。これにかかわる暮らし方や地域のルールを念頭に、いつ起こるかわからない事象に対する地域での「危機感の共有」のあり方を考えます。</p>				
E	第5日目 2/6 (土)	14:00~15:30	近畿大学	コロナ禍から学ぼう ～今日からできる東洋医学の心身管理～	社会連携推進センター 講師 日置 智津子 先生
	<p>人生100歳時代と言われる日本ですが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大によって、私達が当たり前と思っていた日常の事象が様変わりしつつあります。老若男女、いずれも個々の生活様式や物事に対する価値観すら変えることを余儀なくされているようです。東洋医学では“人間”とは、心も身体も常に変化するものであり、変化しつつ環境にあわせて恒常性を維持すべく動く存在(being)として、“心身一如”の健康管理(養生)を行います。東洋医学を解説しつつ、その身近な健康法をご紹介します。</p>				
F	第6日目 2/7 (日)	14:00~15:30	大阪樟蔭女子大学	日本近代文学と感染症 ーコロナの時代に文学は可能かー	国文学科 教授 黒田 大河 先生
	<p>横光利一「春は馬車に乗って」、堀辰雄「風立ちぬ」などの肺結核や、北条民雄「いのちの初夜」のハンセン病に対して、大流行したスペイン風邪を描いた作品が少ないのはなぜか。パンデミックと文学について考えます。</p>				